様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　５ 年　６ 月 １５ 日現在

機関番号：１４６０２
研究種目：若手研究
研究期間：2018～2022
課題番号：１８Ｋ１８２５４

研究課題名（和文）インド北東部多民族社会の日常が有する言説化したグローバル問題に対するレジリエンス

研究課題名（英文）Resilience to Discoursed Global Issues in Daily Life of Multiethnic Societies in Northeast India

研究代表者
浅田　晴久（Asada, Haruhisa）

奈良女子大学・人文科学系・准教授

研究者番号：２０７１３０５１

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,200,000円

研究成果の概要（和文）：　本研究では、民族対立や気候変動、パンデミックなどのグローバル問題に対して、インド北東部で暮らす住民がいかなる影響を受けているか、または影響を受けずに日常生活を送っているか、複数の事例を調査した。アッサム州の調査村では、生業活動の変容を通して徐々に住民の意識や社会関係が変わりつつあり、レジリエンスが低下していることが示唆された。地域社会の安定のためには、今後もさまざまな事例を調査しつつ、有効な対策を考える必要がある。

研究成果の学術的意義や社会的意義
　インド北東部で長引く宗教対立・民族間対立の問題は、政治学や社会学の分野などで研究されてきたが、それらは必ずしもフィールド調査を重視しない分野であるため、ときに地域の実態とかけ離れた言説が再生産されてきたという側面がある。本研究では、複数の地点におけるフィールド調査により村落住民の日常の事例を収集しつつ、外部からの影響も考察することで、既存研究の問題点を克服している点に学術的意義がある。

研究成果の概要（英文）：This study examined several cases of how residents in Northeast India are affected or unaffected in their daily lives by global issues such as ethnic conflict, climate change, pandemics and so on. In the study villages in Assam, residents' perceptions and social relations are gradually changing through the transformation of their livelihood activities, suggesting that their resilience is declining. Effective measures for maintaining the stability of the local communities need to be considered while continuing to investigate various case studies in the region.

研究分野：南アジア地域研究

キーワード：インド　アッサム州　マニプル州　ブータン　ミャンマー　境界地域　多民族社会　新型コロナウイルス感染症（COVID-19）

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

地域研究に求められている現代的役割の一つに、グローバル問題の克服に貢献することがあげられる。近年、ロヒンギャ難民の問題など、世界各地で異民族・異教徒間の対立が発生している。これらは地域内部の要因によって発生したものであるが、域外の宗教対立や政治対立に関する情報が言説化してその価値観に住民が感化されることで拡大している対立であり、21 世紀のグローバル時代特有の性質を帯びている。一方、研究代表者のこれまでのフィールドワークの経験からは、日常的な隣人関係の中では民族や宗教の違いが特段意識されるとは限らず、異民族同士でも良好な関係を築いている場合も多い。この日常的な隣人関係が外部からの要因によって突如崩れて対立に発展するのが、言説化したグローバル問題によって引き起こされる民族対立の特徴である。

グローバルに拡散する情報は、民族対立であれ、地球環境問題であれ、パンデミックであれ、国家や行政といった制度化された枠組みを飛び越えて、直接個人に感染するという性質をもつ。このような事態を防ぐには、実態とはかけ離れた「言説化した情報」に惑わされず、個人やコミュニティがまっとうな価値基準を保持することが重要である。本研究は、日常的な隣人関係や生業・モノの流れがつくるネットワークを介して個人やコミュニティ間で共有されている価値規範が、地域のレジリエンス、つまり免疫力として機能しうるかという問いについて、インド北東部の多民族社会を事例に考察するものである。

２．研究の目的

本研究では、インド北東部に暮らしているさまざまな民族集団を対象として、個人やコミュニティがどのように生態環境･他者･他集団･行政などとネットワークを構築しているかについて、日常的な視点から明らかにし、そこにみられる共存・対立関係に、域外からの情報やモノによる影響力がどの程度作用しているかを検証する。特に、民族間の経済的・社会的・文化的つながりによって成立している生業活動・隣人ネットワークに着目して、言説化された情報に対する免疫力の基礎となる、民族・宗教を越えた価値規範が域内で共有されているかを考察する。

３．研究の方法

インド・アッサム州の中心都市グワハティの郊外にある、ムクタプル村を拠点として調査を行う。ムクタプル村は典型的な在来ヒンドゥー教徒（アホミヤ。アッサム州で主流派を占める人々）の村落であり、彼らの思考を明らかにする上でも最良の環境にある。ムクタプル村から北へ行くと、ボド（ヒンドゥー教徒の指定トライブ）、ネパリ（外来ヒンドゥー教徒）などが居住するエリアがあり、それらの民族との関係性も考察する。

研究期間中の 2018 年から 2019 年にかけては、マニプル州インパールを訪問する機会を得た。マニプル州は、多数派を占めるメイテイ族（ヒンドゥー教徒）のほか、指定トライブのナガ族、クキ族なども居住しており、本課題を遂行するために適した地域であると思われる。

2020 年 3 月以降は、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）が世界的に流行し、インドでもロックダウンや入国制限措置が取られた。国境を跨ぐ移動が 2 年以上も制限されることとなり、現地調査を実施することが不可能になった。本課題も当初の研究計画・目的を大幅に変更せざるを得なくなった。次に示す研究成果は、(1) から (4) までは COVID-19 の流行前に途中まで実施できたものであるが、(5) は COVID-19 の流行によって当初の計画とは異なる形で得られたものである。

４．研究成果

（１）アッサム州では、定点観測を続けているグワハティ近郊のムクタプル村において、住民に対して生業活動と日常行動に関するセンサス調査を実施した。全世帯から得られた回答紙の分析によってカースト階層・経済階層による生業活動および日常行動の差異を明らかにした。重要な結果として、全 497 世帯中 408 世帯（全体の 82%）が安価な配給米を毎月食べていることが明らかになった。配給米はインド北西部のパンジャーブ州やハリヤーナー州で生産されたものを政府が買い上げて、公的分配システムによって各州に配分されたものである。政府の配給米への依存が高まるにつれて、オホミヤの農家が自家で水田耕作を続ける意欲が減退しており、土地利用の転換が始まっている。また、水田の生態環境や稲作労働を通じた村内外の人間関係も変容しつつあることが分かった。

（２）2019 年 8 月 25 日に、アッサム州のムクタプル村において、ワークショップ「Environmental Changes and Rural Livelihoods」を開催した。現地研究者と住民あわせて約 50 名の参加を得て、気候変動にともなう生業の変化や、他州で生産される配給米が村内の農業活動に与える影響などに関して、研究者と住民の間で意見交換の場が設けられた。研究者が外からの観察・分析によって明らかにした、気候の変化、農業生態系の変化、村落社会の変化などについて、村の住民

も同様の変化を認識していることが確認された。特に村落社会の変化により、農作業や村内行事にみられる、かつての村人同士の連帯が失われつつあり、外部からの自然・社会経済的なインパクトに対するレジリエンスが村内で低下していることが示唆された。本ワークショップの記録は、冊子『Rural Livelihoods and Environmental Changes in Muktapur Village: People's voice』としてまとめて、2020 年 3 月 31 日に発行した。

（3）ムクタプル村の北方、アッサム州とブータンの国境付近の多民族社会の生業活動についても調査を行った。ここは山麓の粗粒土が卓越する地域で地表水が得にくいため、河川が山地から平地に出る地点から水路を引いて下流側の耕地に灌漑を行っている。ドゥンと呼ばれる水路の維持管理には、ネパリ、ボド、ベンガリ、モダヒなど複数の民族が参加しており、周辺村から村人が大勢集まって、協力して水路の補修を行っていることが分かった。

2020 年 3 月にはブータン領内のサムドゥプ・ジョンカルを訪問し、国境エリアの地域特性を面的にも観察した。ヒマラヤ山麓部に相当する本地域は、イギリス植民地時代以前より、山地民と平地民の交流が行われていた場所である。独立後のインドとブータンの間で国境線が引かれたことで、アッサム住民とブータン住民の交流は一旦途絶えてしまった。しかし、今でも両地域の環境条件の差異を利用して、細々と民族間の交流は行われていることも分かった。

（4）マニプル州では、インパールからロクタク湖を訪問するとともに、地域住民の生業と政府による開発に関する資料を収集した。その結果、政府主導で進められたダム開発によって、湖周辺に住む住民の生活が大きく影響を受けていることが分かった。また、インド・ミャンマー国境地域も訪問し、国境をまたぐ交易活動が住民の生活にどの程度の影響を与えているかという視点から観察調査を行った。ミャンマー側からインド側へ多数の商品が流入しているものの、住民の生活を大きく変容させるには至っていないと現時点では判断した。マニプル州の調査は予備的段階ではあるが、インド・ミャンマー国境地域に相当するマニプル州では、域外からの影響がアッサム州とは異なった形でみられるため、地域比較の意味でも調査を継続していく価値はある。

（5）研究期間中に新型コロナウイルス感染症（COVID-19）が発生、世界的に流行したことにより、インドに渡航不可能になったため、当初の計画を遂行することが困難になった。そこで、COVID-19 を 2020 年に出現した新たなグローバル問題と捉えて、インド北東地方の地域社会がこの問題に対してどれほどのレジリエンスを有しているかというテーマに変更して、その実態を調べることにした。

流行初年度の 2020 年には、アッサム州の大学で開催されるオンライン会議などに参加して、コロナ禍の現地の状況を探ることにした。現地で開催されたオンライン会議では、参加者はいずれも現地の大学教員や大学院生であり、日本と同様にインドの大学でも手探りでオンライン授業、オンラインを活用した研究活動が継続されていることが分かった。しかし、学生の中には個人の PC を所有していない者が多く、たとえ PC を所有していてもネットワーク接続に問題があるなど、途上国ならではの課題があることが報告された。また、人が密集している都市部に比べて、人口密度が低く、集落間の距離がはなれている村落部では新型コロナウイルス感染症の影響が相対的に少ないことも報告された。

そこで、ムクタプル村に居住するカウンターパートに依頼して、同村においてコロナ禍における日常生活に関するアンケート調査を実施することにした。事前の調整に時間がかかったが、2021 年 1 月に実施したところ、計 212 名より回答を得た。その後、2022 年 8 月には、COVID-19 の感染拡大以降、2 年半ぶりにムクタプル村を訪問して、調査村の村人に、感染拡大時の詳しい状況を聞き取りした。事前の予想に反して、COVID-19 にともなうロックダウンのせいで収入が減った世帯はなく、食糧不足に陥った世帯も少なかったことが分かった。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計7件（うち査読付論文　4件／うち国際共著　2件／うちオープンアクセス　7件）

１．著者名 浅田晴久	４．巻 32
２．論文標題 アッサム州における近年の農業変容と地域社会－在来ヒンドゥー教徒村落の耕地利用変化に着目して－	５．発行年 2021年
３．雑誌名 南アジア研究	６．最初と最後の頁 6-34
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.11384/jjasas.2020.6	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 浅田晴久	４．巻 18
２．論文標題 コロナ禍におけるオンライン地域学習の試み	５．発行年 2022年
３．雑誌名 奈良女子大学文学部研究教育年報	６．最初と最後の頁 15-20
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 Haruhisa Asada and Kamal Vatta	４．巻 1
２．論文標題 Regional characteristics of stubble burning in Punjab, India and the effect of the COVID-19 lockdown	５．発行年 2022年
３．雑誌名 Aakash Working Paper	６．最初と最後の頁 1-13
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

１．著者名 浅田晴久	４．巻 103
２．論文標題 インド北東地方のボーダーと辺境の変容―アッサム・ブータン国境を中心に―	５．発行年 2021年
３．雑誌名 CIRAS Discussion Paper	６．最初と最後の頁 21-34
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 浅田晴久	4．巻 14(2)
2．論文標題 インパールの過去・現在・未来―南アジアと東南アジアのはざまで―	5．発行年 2019年
3．雑誌名 E-journal GEO	6．最初と最後の頁 296-303
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.4157/ejgeo.14.296	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Nityananda Deka, Haruhisa Asada, Abani Kumar Bhagabati	4．巻 40(1)
2．論文標題 Landholding structure and rural land use pattern in the Brahmaputra floodplain: A comparative study of villages from upper and lower Assam	5．発行年 2018年
3．雑誌名 Transactions: Journal of the Institute of Indian Geographers	6．最初と最後の頁 71-81
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1．著者名 Haruhisa Asada	4．巻 58
2．論文標題 Post-flood relief and agricultural development in Bangladesh	5．発行年 2023年
3．雑誌名 Geographical Reports of Tokyo Metropolitan University	6．最初と最後の頁 9-16
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計20件（うち招待講演　5件／うち国際学会　13件）

1．発表者名 Jun Matsumoto and Haruhisa Asada
2．発表標題 The rice agriculture development and severe flood history since the late 20th century in Bangladesh
3．学会等名 The Sixth Biennial Conference of East Asian Environmental History（国際学会）
4．発表年 2021年

１．発表者名 Yang Zhesi, Kayo Ueda, Tomohiro Umemura, Kazunari Ohnishi, Hiroaki Terasaki, Yutaka Matsumi, Tomoki Nakayama, Rumiko Murao, Haruhisa Asada, Takahiro Sato, Sachiko Hayshida
２．発表標題 Public perception of air pollution and stubble burning;a cross-sectional survey study in Punjab, India
３．学会等名 第62回大気環境学会年会
４．発表年 2021年

１．発表者名 Haruhisa Asada, Takahiro Sato, and Kamal Vatta
２．発表標題 Regional characteristics of rice-wheat cropping system and stubble burning in Punjab
３．学会等名 Aakash Workshop 2021（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 Kazuyuki Inubushi, Shigeto Sudo, Eiji Nishihara, Haruhisa Asada, Takanori Sato, Masashi Takada, M, Chandra, Kamal Vatta, and Sachiko Hayashida
２．発表標題 Sustainable soil and organic matter management in Northwest India
３．学会等名 International Conference on Recent Trends in Smart and Sustainable Agriculture for Food Security: SSAFS-2022（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2022年

１．発表者名 浅田晴久
２．発表標題 インド北東地方のボーダーと辺境の変容：アッサム・ブータン国境を中心に
３．学会等名 ワークショップ「ユーラシア国境域の自然環境と境域社会の生活戦略」
４．発表年 2021年

１．発表者名 Jun Matsumoto and Haruhisa Asada
２．発表標題 Highland-lowland interaction in the Ganges-Brahmaputra-Meghna River Basin: Floods and rice production
３．学会等名 IGU India International Conference on Global to Local Sustainability & Future Earth（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2020年

１．発表者名 Jun Matsumoto, Haruhisa Asada, Azusa Fukushima, and Hironari Kanamori
２．発表標題 Rainfall variations, floods and their effects on rice production in the Ganges-Brahmaputra River Basin
３．学会等名 International Webinar on Climate Change, Geo-hazards and Sustainable Development（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2020年

１．発表者名 Haruhisa Asada
２．発表標題 Geography Education in the era of Covid-19: A case in Japan
３．学会等名 International Web-Conference on COVID-19 Pandemic from the Eyes of Geography: Global, National and Regional Perspectives（国際学会）
４．発表年 2020年

１．発表者名 Haruhisa Asada
２．発表標題 Recent trends of Geographic study and research in Japan
３．学会等名 International Webinar on Recent Trends in Geographic Studies and Research（招待講演）
４．発表年 2020年

１．発表者名 Haruhisa Asada
２．発表標題 Impact of Covid-19 pandemic on socio-economic activities in Japan
３．学会等名 International Webinar on Impact of Covid-19 pandemic on socio-economic activities with special reference to Japan and India（招待講演）
４．発表年 2020年

１．発表者名 Haruhisa Asada
２．発表標題 Transformation of Agriculture and Rural Society in Muktapur village
３．学会等名 Workshop on Rural Livelihood and Environmental Changes（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Haruhisa Asada
２．発表標題 Ecological structure of the multi ethnic society in Assam
３．学会等名 Workshop on Socioeconomic/Hydroclimatological Perspectives of Future Asian Monsoon（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 浅田晴久
２．発表標題 アッサム州における農業離れと耕地利用の変化－カースト・ヒンドゥー教の村落の事例より
３．学会等名 日本南アジア学会第31回全国大会
４．発表年 2018年

１．発表者名 Haruhisa Asada
２．発表標題 Living spaces of ethnic groups and their relationship with ecological environment in Assam, India
３．学会等名 XVIII World Economic History Conference（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 浅田晴久・松田正彦・安藤和雄・内田晴夫・柳澤雅之・小林知・小坂康之
２．発表標題 モンスーンアジアにおける近年の稲作技術展開
３．学会等名 日本地理学会2018年度秋季学術大会
４．発表年 2018年

１．発表者名 Haruhisa Asada
２．発表標題 Socio-ecological conditions of the stubble burning in selected villages in Punjab
３．学会等名 Aakash Workshop 2023 in Delhi（国際学会）
４．発表年 2023年

１．発表者名 Haruhisa Asada
２．発表標題 Post-flood management and agricultural development in Bangladesh
３．学会等名 International Workshop on Climate, Water, Land, and Life in Monsoon Asia（国際学会）
４．発表年 2023年

１．発表者名 Dilruba Sharmin, Haruhisa Asada
２．発表標題 The Social and Cultural Challenges of Japanese Workers in Bangladesh: A case study on the Metro Rail Project
３．学会等名 2nd International Hybrid Conference on Japanology in New Era（国際学会）
４．発表年 2023年

１．発表者名 浅田晴久，佐藤孝宏，村尾るみこ，林田佐智子，Kamal Vatta
２．発表標題 インド・パンジャーブ州における稲作残渣物焼却の地域性と要因
３．学会等名 日本南アジア学会第35会全国大会
４．発表年 2022年

１．発表者名 Haruhisa Asada
２．発表標題 The Regional characteristics of stubble burning in Punjab
３．学会等名 Aakash Workshop 2022（国際学会）
４．発表年 2022年

〔図書〕　計6件

１．著者名 西谷地晴美	４．発行年 2020年
２．出版社 かもがわ出版	５．総ページ数 180
３．書名 気候危機と人文学―人々の未来のために	

1．著者名 現代地政学事典編集委員会	4．発行年 2020年
2．出版社 丸善出版	5．総ページ数 888
3．書名 現代地政学事典	

1．著者名 Satoshi Yokoyama, Jun Matsumoto and Hitoshi Araki	4．発行年 2020年
2．出版社 Springer Nature Singapore Pvt Ltd.	5．総ページ数 172
3．書名 Nature, Culture, and Food in Monsoon Asia	

1．著者名 Nityananda Deka, Haruhisa Asada and Yusuke Yamane	4．発行年 2020年
2．出版社 Shinohara Printing Co.,Ltd.	5．総ページ数 63
3．書名 Rural Livelihoods and Environmental Changes in Muktapur Village: People’s Voice	

1．著者名 Ashok Kumar Bora, Dibyajyoti Saikia	4．発行年 2023年
2．出版社 EBH Publishers	5．総ページ数 310
3．書名 Resource Management and Livelihood Issues：Regional and National Perspectives	

１．著者名 Anup Saikia, Pankaj Thapa	４．発行年 2022年
２．出版社 Springer	５．総ページ数 241
３．書名 Environmental Change in South Asia: Essays in Honor of Mohammed Taher	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計1件

国際研究集会	開催年
Rural Livelihoods and Environmental Changes in Muktapur Village	2019年～2019年

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関